

# 黒田官兵衛と福岡県

平成26年1月から、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映が始まりました。主人公の黒田官兵衛は、1546年播磨国(兵庫県姫路市)に生まれ、天下人の織田信長、豊臣秀吉に戦(いくさ)の参謀「軍師」としての才能を見出され、備中高松城の水攻めをはじめ、中国、四国、九州の平定で重要な役割を担いました。

福岡県は、県内各地にある史跡・史料を全国に発信し、多くの観光客の方に黒田官兵衛ゆかりの地・福岡を訪れ、史跡めぐりを楽しんでいただけるよう取り組んでおり、県議会も応援しています。



**2 崇福寺** (そうふくじ)  
福岡市博多区千代4-7-79  
黒田家の菩提寺であった崇福寺の境内には、官兵衛・長政など歴代藩主などを祀る黒田家墓所がある。



**3 太宰府天満宮** (ださいふてんまんぐう)  
太宰府市宰府4-7-1  
官兵衛は、晩年の一時期をこの境内で過ごし、その当時使用していたといわれる「如水の井戸」が今も残っている。



**4 小倉城** (こくらじょう)  
北九州市小倉北区内2-1  
関ヶ原の戦いの際に、西軍に属した小倉城主毛利勝信を官兵衛が攻め落城させた。



**5 馬ヶ岳城跡** (うまがたけじょうあと)  
行橋市大字大谷・みやこ町犀川花熊  
官兵衛が中津城に移るまでの間、居城とした山城。



**1 福岡城跡** (ふくおかじょうあと)  
福岡市中央区城内  
福岡藩祖・官兵衛と初代福岡藩主・長政が慶長6年(1601)から7年がかりで築城。



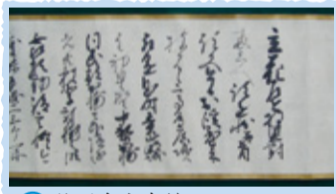
**6 城井ノ上城址** (さいのこうじょうし)  
築上郡築上町寒田  
宇都宮氏と黒田家との激戦が繰り広げられた城。周囲を岩壁に囲まれた天然の要塞。



**11 水田天満宮** (みずたてんまんぐう)  
筑後市水田62-1  
水田会談を経て、立花宗茂を説得し、柳川城を開城させた。官兵衛は水田天満宮で陣を張ったといわれている。



**7 麻生大浦荘** (あそうおうらそう)  
飯塚市立岩1060  
「筑豊御三家」の一つに数えられた麻生家の別邸で、官兵衛が通った笠松峠が邸内にある。



**10 柳川古文書館** (やながわこもんじょかん)  
柳川市隅町71-2  
豊臣秀吉が九州平定の先遣である安国寺恵瓊・黒田勘解由(官兵衛)・宮木入道へ宛てた書状を保管。



**8 麟翁寺** (りんのおうじ)  
嘉麻市大隈町1023  
黒田節の主人公、母里太兵衛の墓がある。



**9 長崎街道内野宿** (ながさきかいどううちしのしゆく)  
飯塚市内野3273  
長崎街道筑前六宿(黒崎・木屋瀬・飯塚・内野・山家・原田)の一つ。

▲筑前黒田藩の御用窯だった高取焼(直方市・永満寺の窯で焼かれたのがはじまり)

ふくおか  
県議会だより  
第8号

福岡県議会ホームページ  
<http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/>  
携帯電話向けサイト  
<http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/m/>

年代	黒田官兵衛の生涯
1546年[1歳]	播磨国姫路で誕生。
1567年[22歳]	家督を相続する。
1568年[23歳]	長男 松寿丸(黒田長政)誕生。
1569年[24歳]	青山・土器山の戦いで十倍差ともいわれる兵力差の大軍に勝利し、名を轟かせる。
1575年[30歳]	織田信長に拜謁、「へし切長谷部」(福岡市博物館所蔵)を与えられる。秀吉に仕える。
1578年[33歳]	主君信長への謀反の噂のある荒木村重の説得に単身乗り込むが捕まり、約一年間幽閉される。
1581年[36歳]	兵糧攻めで鳥取城を攻略。
1582年[37歳]	高松城攻めで水攻めを提案し、軍師として活躍。高松城攻略の際、本能寺の変を聞き、中国大返しを成功させる。
1583年[38歳]	キリスト教の洗礼を受け、洗礼名をドン・シメオンとする。

年代	黒田官兵衛の生涯
1586年[41歳]	九州平定のため、豊前国へ入国。
1587年[42歳]	秀吉から、豊前六郡を与えられ、馬ヶ岳城(行橋市・みやこ町)に入る。太閤町割にて博多の町の復興に関わる。
1588年[43歳]	中津城(大分県中津市)へ移る。
1589年[44歳]	家督を長政に譲る。
1590年[45歳]	小田原征伐に参加、講和による使者として活躍。
1591年[46歳]	秀吉の命により、名護屋城(佐賀県唐津市)の縄張を行う。
1593年[48歳]	如水円清と号する。
1600年[55歳]	石垣原(大分県別府市)の戦いで勝利。小倉城を攻略し、久留米城、柳川城を開城。(関ヶ原の戦い:子の長政に筑前五十二万石が与えられる)
1601年[56歳]	福岡(福岡市)の地を福岡と改称し、福岡城の築城を始める。完成までは、太宰府天満宮(太宰府市)の庵で隠居生活を送る。
1604年[59歳]	死去。崇福寺(福岡市)に葬られる。

関連記事を6面に掲載しています。

## 定例会の概要

平成二十五年十二月

12月定例会は、12月2日に召集され、12月19日まで18日間の会期で審議が行われました。

今定例会には、「平成25年度福岡県一般会計補正予算」など予算議案2件、「福岡県警察の組織及び定員に関する条例の一部を改正する条例」など条例議案11件、専決処分したものの議案2件、工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更に関する議案2件、人事に関する議案1件、その他の議案9件、合計27件の議案が提出されました。

審議にあたっては、外郭団体等との契約方法見直し、県税収入の見直し、農政問題、教育問題、医療福祉問題など、県政全般にわたり活発な議論が交わされ、提出された議案27件については、いずれも原案のとおり可決、承認または同意されました。また、9月定例会において決算特別委員会に付託され、閉会中に審査された平成24年度決算議案20件についても原案のとおり認定されました。

また、任期満了に伴う福岡県選挙管理委員会および補充員の選挙を行い、委員4人、補充員4人が当選されました。決算特別委員会の審査内容については、6面に掲載していますので併せてご覧ください。

# 代表質問から

※ここに掲げている質問は、代表質問の一部を抜粋したものです。



自民党県議員  
月形 祐二 議員

**Q 平成25年度県税収入の見直しについて伺いたい。**

**A** 平成25年度県税収入当初予算額は、緩やかに持ち直す見込まれた経済状況、国の税制改正による影響額などを勘案し、平成24年度決算額と比較してほぼ同額の100・1%で計上している。一方で、25年度の4月から10月までの実績額を24年度の同期と比較すると102・1%で推移し、当初予算の伸び率を2・0ポイント上回っている。これは企業収益の改善に伴い、法人事業税が当初見込み以上に増収になっていることが主な原因である。仮に伸び率102・1%が今後も続くとすれば、25年度の県税収入は当初予算額を100億円程度上回る見込みである。今後とも県税収入の二層の確保に向け、悪質滞納者に対する徴収対策等、全力で取り組んでいく。

**Q 外郭団体等への補助金について、どのような見直しを行ったのか。**

**A** 包括外部監査において指摘を受けた7団体のみならず、県が単独で補助をしている480の全ての補助金について点検を行った。その結果、交付目的や補助率の記載漏れなど形式面に不備がある186の補助金について速やかに見直すこととした。これ

に加え、平成26年度から8の補助金を廃止し、115の補助金を見直すこととしている。具体的には運営費補助となつている73全ての補助金について、事業の公益性に着目した事業費補助金へ再整理する。また42の事業費補助金については補助率や積算の見直し等を行う。これらのうち補助対象事業費に人件費が含まれる70の補助金については、標準的な人件費単価を使用して補助対象経費を積算するよう徹底する。これらにより3億5千万円余の節減が図られると考える。

**Q 外郭団体との随意契約および団体からの再委託の見直しについて伺う。**

**A** 県が財政支援および人的支援を行っている144団体全てを対象に、これら団体との特命随意契約411件117億円余、またこれら契約の団体からの再委託49件48億円余について点検を行った。その結果、来年度当初までに特命随意契約90件約15億円を競争入札など、より透明性の高い契約方法に切り替え、団体からの再委託32件約5億円についても県から直接委託に改めるなど見直しを行う。さらに工事積算業務に関わる約240件8億円の特命随意契約を行っている建設技術情報センターについては、今後5年間をめぐり順次競争入札への切り替えを進める。特命随意契約のうち78億円余を占める下水道管理センターについては、流域ごとの望ましい管理運営方法を共同管理する関係市町村との協議を進めていく。



民主・県政県議員  
大橋 克己 議員

**Q 「平成の大合併」で合併した自治体は、合併前の旧自治体が受ける交付税の合計額が10年間保障され、11年目から段階的に減らされる激変緩和措置がある。この交付税特例措置(合併算定替)の期限切れを見据え、本県の合併市町村への支援策について、知事の考えを伺う。**

**A** 県では、合併市町村に対し、合併特例交付金による財政支援、県職員の派遣、人事交流や研修生の受け入れによる人材育成の支援を行うとともに、国の各種の財政支援について、起債などを有利に活用できるように積極的な情報提供や助言を行っている。合併市町村は、庁舎、公共施設の再編や空きスペースの有効活用、周辺の旧町村の活力維持、住民の一体感の醸成など懸命な努力を重ねられており、県としても引き続き、支援を続けていく。

**Q 木造住宅耐震改修補助制度の全市町村への導入と県民への周知についてお尋ねする。全市町村における補助制度の導入を急ぎ、県民への周知を強化すべきと考えるが、知事の考えを伺いたい。**

**A** 市町村が行う補助制度の導入には、耐震改修促進

計画の策定が条件になつてのことから、計画を策定している市町村を中心に個別訪問を行い、制度の仕組みや参考となる取り組み事例の説明を行い、補助制度導入を要請している。また、県民の皆さまに対する補助制度の周知については、県のホームページで市町村の補助制度を紹介するとともに、制度を導入した市町村と連携して、住まいの耐震化教室の開催、耐震診断アドバイザーの派遣を行い、補助制度の活用について周知を図っている。今後とも市町村と連携し、耐震改修の重要性を広く県民の皆さまに啓発するとともに、補助制度をまだ導入していない市町村に対し、制度の導入をしっかりと働きかけていきたい。

**Q 教育行政を執行し、チエック機能を果たす重要な役割を担うのが、本来の教育委員会のあるべき姿であるが、この現状を知事はどう受け止めているのか。**

**A** 学力向上やいじめ・不登校対策など直面する教育行政の課題について、教育委員会会議での審議内容も含め、事務局から必要に応じた報告を受けている。教育委員会には、優れた人格で教育に関与して見識を有する方に就任をお願いしている。私自身、しばしば教育委員との率直な意見交換を行い、意思疎通を図っているところだが、委員の方々に十分その職責を果たしていただいていると考えている。



公明党  
松下 正治 議員

**Q 消費税の軽減税率の導入について伺いたい。**

**A** 平成25年度の与党税制改正大綱で「消費税率10%を引き上げ時に、軽減税率制度を導入することをめざす」と示され、与党税制協議会等で検討がなされているところ。低所得者ほど税負担が相対的に重くなることから、これを緩和する方策が必要であると考える。生活に欠かせない食料品などの税率を低く抑えることで低所得者の税負担を軽くする効果がある一方で、対象品目の線引きが困難であること、加えて税収が減少すること、事業者の事務負担が増加するといった課題がある。全国知事会でも提案をしているが、軽減税率の導入時期については慎重に検討すべきであり、導入に際しては地方社会保険財源に影響がないよう、地方財源を確保する方策が同時に講じられるべきと考える。

**Q 食材の偽装表示に対する対応と今後の取り組みについて伺う。**

**A** 県内の問題発生後ただちにホテル、百貨店、飲食店など8つの業界団体に職員が直接出向いて食材表示の速やかな点検を求めるとともに、景品表示法および食品表示関係法令を周知徹底

し、これを遵守するよう要請した。また庁内関係課で構成する食の安全対策推進会議を開催して情報共有するとともに、新たに問題が明らかになった場合には迅速に情報交換を行い、その適正化に向け連携して対応することとしている。これまで明らかになった32店については聞き取りや現地確認を進めており、違反事実が確認されれば法に基づいて対処する。今後は食材表示に関するガイドラインが消費者庁から示される予定で、業界団体に周知徹底し、食の信頼回復に向け適正化に努めていく。

**Q ストーカー被害の未然防止と拡大防止に向けた取り組みについて。**

**A** この12月にストーカー等に対処するための体制の確立について基本的な考え方が警察庁から示された。県警察では、これまでもストーカー事案が事態の急展開により重大事件に発展するおそれがあることを踏まえ、避難を拒む被害者に対して一時避難を強く促す。また被害申告を躊躇する被害者に対しては、危険性が切迫している場合には、被害申告がなくても積極的に事件化を図る。さらには事案に応じて凶悪事件を担当する捜査第一課特殊班や本部執行隊も投入するなど対応している。警察庁から示された基本的な考え方に沿って、被害者への安全確保を最優先として、組織一体となって被害の未然防止と拡大防止に努めていく。



緑友会  
神崎 聡 議員

**Q 新規就農者が定着するための取り組みについて伺う。**

**A** 昨年度の新規就農者数は204人と過去最大。その9割が他産業からのUターン者や新規参入者が占め、当面の生活費や住宅確保の課題がある。営農から生活関連まで一体的に受け付ける相談窓口の開設を進め、国の給付金制度を活用して就農前後の所得の確保を支援している。また経営改善のためのフォローアップが重要なことから、普及指導センターにおいて営農講座を開催し、個別に現場を巡回してきめ細かな技術指導を実施している。

**Q 防災士および防火管理者等の育成状況について。**

**A** 平成18年度から3年間で約5000人を養成し、約2000人の防災士がいる。自主防災組織のリーダーや災害ボランティアセンターで活動する方がいる一方で、資格は取得したものの活動する場がない方もいるので、技術向上の機会として避難計画の策定や避難所運営などのノウハウが取得できる研修を行っている。防災士を含めた自主防災組織のリーダー育成は、災害時の情報伝達や避難誘導などを的確に行うために重要。そのため対象者に研修を実施し、また消防団OBなど防災実務経

験者などに研修への参加を働きかけている。リーダー育成により自主防災組織の活動強化を図っていく。防火管理者は消防計画の作成、通報、消火・避難の訓練の実施、消防設備の点検・整備など、ハード・ソフト両面の防火対策責任者である。消防本部による立入検査時に、防火管理者が実施すべき防火対策が行われているか確認・指導が重要となる。今回の診療所火災を踏まえ、防火管理者はもとより、全ての従事者が火災に対し適切に対応できる能力を身に付けることが非常に重要と考える。県の消防、建築、医療部局が連携し、病院・診療所に関係者に研修の機会などに指導をしている。今後は社会福祉施設などにも指導対象を広げていきたい。

**Q 筑豊地区の学力向上の取り組みについて伺う。**

**A** 近年、筑豊地区の市町村では独自に補充学習を実施するなど、地域や学校の課題に応じた主体的な取り組みを実施しており、全国との差は徐々に縮まる傾向にある。県教育委員会においても、庁内のプロジェクトチームを中心に学校現場と連携しながら、学力向上を含む活性化の取り組みを進めている。学力調査における平均正答率の目標値として、来年度は全国平均との差を0・7(2・1ポイント縮める)ことを目標としている。県教育委員会としては広報活動の強化や効果的な人員配置等の支援を行い、県民から信頼される学校づくりに努めていく。

提出された議案

平成25年12月定例会では議案27件が提出され、いずれも原案のとおり可決、承認または同意されました。

- 予算議案2件
  - ・平成25年度福岡県一般会計補正予算(第2号)
  - ・平成25年度福岡県流域下水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 条例議案11件
  - ・福岡県職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県旅券発給手数料条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県介護サービス事業等の人員、設備及び運営の基準等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県商工関係手数料条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例及び福岡県森林林業技術センター手数料及び使用料条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県営住宅条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県公営企業の設置等に関する条例及び福岡県工業用水道使用料条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県社会教育委員の定数及び任期に関する条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県公立学校職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県警察の組織及び定員に関する条例の一部を改正する条例の制定について
  - ・福岡県留置施設視察委員会条例の一部を改正する条例の制定について
- 専決処分したものについて報告し承認を求める議案2件
- 工事請負契約の締結についての議決内容の一部変更に関する議案2件
- 人事に関する議案1件
  - ・人事委員会委員の選任について
- その他の議案9件
  - ・当せん金付証券の発売について
  - ・市町の境界変更について
  - ・大濠公園能楽堂の指定管理者の指定について
  - ・福岡県立北九州勤労青少年文化センターの指定管理者の指定について
  - ・訴訟事件の和解について
  - ・福岡県営津屋崎漁港内プレジャーボート係留施設の指定管理者の指定について
  - ・福岡県営住宅の指定管理者の指定について
  - ・訴えの提起について
  - ・求菩提資料館等の指定管理者の指定について

可決された意見書、採択された請願

- 可決された意見書**
- 公務員獣医師の処遇改善を求める意見書
  - 自衛隊官舎の使用料引き上げに関する意見書
  - 中国による防空識別圏の設定の即時撤回を求める意見書
  - 合併算定替終了後の新たな財政支援措置を求める意見書
  - 過疎対策の積極的推進を求める意見書
  - 4ワクチン(水痘・おたふくかぜ・成人用肺炎球菌・B型肝炎)の定期接種化を求める意見書
- 採択された請願**
- 白杖シグナル運動の周知に関する請願
  - 4ワクチン(水痘・おたふくかぜ・成人用肺炎球菌・B型肝炎)の定期接種化を求める請願
- ※否決された意見書、不採択の請願はありません。また、その他の請願は、継続審査となりました。

代表質問を終えて

会派を代表して行われた代表質問について、各会派が分かりやすく説明します。

自民党県議団

まず、中学校への拳銃持ち込み事件について、たところ、知事から県警察等の関係機関と一体となって違法銃器の根絶を図り、併せて、学校の危険管理体制の点検・見直し、強化を図り、県民が安心して暮らせる地域社会の実現に努めるとした見解が明らかにされました。

次に、平成25年度県税収入について、知事から企業収益の改善に伴う法人事業税の増収により、当初予算額を100億程度上回る増収見通しが初めて明らかにされました。

次に、外郭団体等の補助金見直しについて、包括外部監査で指摘を受けた7団体のみならず、県が単独で補助を行っている480の全ての補助金について点検を行い、不備がある186の補助金について本年度速やかに見直すことが明らかにされました。

最後に、糸島の元気づくりについて、糸島ならではの豊富な農林水産資源や強みを活かす、住居地としての人気も高まり、九州大学学術研究都市構想も推進されているような糸島の持つ地域資源やポテンシャルを県全体の振興で重要な資源と位置づけ、糸島の発展、ひいては福岡県の発展につなげていきたいとした知事の糸島振興の柱が明らかにされました。

民主・県政議団

冒頭、特定秘密保護法案が十分審議を尽くさぬまま、国会で強行採決されたことに、会派として強く抗議の意思を表明し質問に入りました。平成25年度の税収見通しと平成26年度の予算編成方針、三川鉱炭塵爆発事故50年、産業廃棄物最終処分場の行政執行問題、住宅の耐震化促進、「福岡県福祉のまちづくり条例」の見直し、教育問題など福岡県の諸問題について質問しました。

死者458人、一酸化炭素中毒者839人を出す戦後最悪の大災害から50年の節目を迎えた三川鉱炭塵爆発事故に関して、知事は哀悼とお見舞いの言葉と三川炭鉱の発展と苦難の歴史を後世に語り継ぐ必要性を述べました。また、大牟田吉野病院における、医療体制に関する「確認書」不履行に関しては、遺憾の意を表明し、国に対する要請を確約しました。

「福岡県福祉のまちづくり条例」に関しては、幅広い利用者ニーズに対応できるようにするため、施行規則を総点検し、改正する時期にきていることを指摘しました。

教育問題では、現在の問題点を指摘しながら、教育の政治的中立・継続性・安定性が将来的にも確保されるために危機感を持って教育行政に努めるよう強く要請しました。

公明党

公明党県議団は県民5千人を対象にアンケートによる「生活実感に関する調査」を実施しました。その結果、県民の多くが景気や雇用の回復への実感が少ない半面、物価の上昇を実感し、収入増加の恩恵がないと感じていることが分かりました。このことを踏まえ、知事に対し、本県のさらなる景気・雇用対策の推進を促しました。

特に、中小企業の支援を要請するとともに、雇用における職人不足の問題を指摘し、解決に向けた施策についていただきました。知事は技能人材の不足に対し、関係業界団体と連携しながら人材育成に取り組み、魅力ある職域づくりに努めると回答しました。

また、行政財産の適正管理と有効活用を訴える一方、軽度・中等度18歳未満の難聴児に対する補聴器購入費助成制度の創設や医療・福祉施設における防火安全対策の確実な実施を迫りました。

教育問題では、体罰に関する実態把握のあり方と対応について、体罰に関する実態把握のあり方と普及・啓発を提案しました。

警察に対しては、近年増加しているストーカー被害の本県における状況と今後の防止策についていただきました。

緑友会

県民意識調査における県民の幸福実感の推移と、県の取り組みへの反映について、知事から「県民の幸福実感は着実に向上してきており、県民の皆さんから福岡県は一番生活しやすいと思っていただけのようにしていくことが、県民幸福度日本一の実現につながっていく」との回答がありました。

アジアの玄関口、福岡県の国際交流を今後一層推進していくためには、県議会と執行部の連携、適材適所の人事配置の必要性をいただきました。知事から「海外と友好協力関係を築いていくため、議会と連携を図り、幅広い分野で交流を進めてまいりたい、また、人事配置については、海外勤務を通じて培った知識や経験を活かせる職場への配置を基本とし、その経験やノウハウを組織として共有化し、蓄積するとともに、国際的な視点を有する若手職員の発掘と育成に努めてまいります」との回答を得ました。

他にも、消費税率引き上げに伴う県の対応、田川地域の活性化、幼保連携型認定こども園移行、県警察の青少年健全育成のための活動などを取り上げました。今後も、県民の安全を守る政策の推進と、誰もが幸福を実感できる県づくりに取り組んでまいります。

一般質問から

※ここに掲げている質問は、一般質問の一部を抜粋したものです。

自民党 県議団



松尾 嘉三 議員 津田 公治 議員 香原 勝司 議員 野原 隆士 議員 井上 順吾 議員 板橋 聡 議員 武藤 英治 議員 桐明 和久 議員 吉村 悠 議員 中牟田 伸二 議員 塩川 秀敏 議員 渡辺 英幸 議員

**板橋議員** 地域活性化の観点から、無形民俗文化財の活用をどう促進するのか。

**A** 文化財を積極的に地域づくりに活用することは、県として取り組むべき指針だ。知事部局では、京築地域で、神楽公演などを通じた地域の魅力発信やにぎわいづくりに県と市町村が一体となって取り組んでいる。また、市町村が行う文化財を活用した地域振興事業を支援してきた。今後、

教育委員会および知事部局が連携しながら、無形民俗文化財の活用がさらに推進されるように助言を行うとともに支援していく。

**渡辺議員** 家庭教育支援の成果と課題をどう分析しているか。

**A** アンケート調査や学識経験者による分析・検証の結果、食事中にテレビを消す家庭が平成22年度は約40%だったものが、平成24年度は約70%に増加している。しかし、9時以降に寝ている子どもが60%以上という状況は改善されておらず、今後も継続して規則正しい生活習慣を身に付けさせることが重要であること等が明らかとなった。

**井上議員** 自衛隊福岡病院が行った新型インフルエンザ対策の訓練の概要と同院が有するノウハウを県はどう活用するのか。

**A** 自衛隊福岡病院は、12月7日に新型インフルエンザの発生時からまん延期における医療対応能力の向上と、関係機関との情報共有、連携強化を目的として、野外テントなどを医療施設として活用した新型インフルエンザ対処訓練を実施した。県としては、訓練の検証結果を含め、そのノウハウを病院の協力もいたしながら、今後、作成予定の臨時の医療施設の設置や運営に関するマニュアルに反映させる。

**塩川議員** 筑豊地域の雇用拡大や経済効果を生み出す観光産業を育成するための地域資源を活

かした観光戦略について知事の見解を問う。

**A** 筑豊地域には、伊藤伝右衛門邸・山本作兵衛氏の炭坑記録画や黒田官兵衛が度々宿泊した西光寺など、素晴らしい観光資源がある。市町村や市町村観光協会と力を合わせ、地域の観光資源を1つでも多く掘り起こし、それを磨き上げ、つなげることににより、観光客の滞在期間、観光による消費を伸ばし、筑豊地域の観光産業の振興に努める。

**野原議員** 県民の規範意識を高めることについて、知事はどのように考えているのか。

**A** まずは幼児期から家庭でしっかりとしつけを行い基礎を作り、学校での集団生活や地域活動の中で社会性やルールを学んでいくことが重要。このため、県では、小学校入学前に基本的習慣を身に付けさせる取り組みや、年齢の異なる仲間などとの交流など様々な体験を積ませるアンビシャス運動などを行っている。他を思いやる心や命の大切さを訴える啓発など、手法も様々に工夫し、また繰り返し行うことによって規範意識を高めるための広報啓発を行っている。

**中牟田議員** PM2.5に関する注意喚起の判断方法の見直しについて。

**A** これまで本県では、環境省が示した判断方法に沿って、早朝5時から7時のデータによる注意喚起の判断を行ってきた。このたび、環境省から改善策が示され、12月6日以降、これまでの早朝のデータによる判断に加え、正午までのデータを用いた

判断を行うこととした。新たな判断基準を適用すると、より精度が高まることになる。ホームページやテレビなど多くの媒体を通じ注意喚起を行っていく。

**香原議員** 産業廃棄物処理施設に係る紛争予防条例については、運用状況を点検した上で、改正して対応すべきではないか。

**A** 条例は、平成7年の改正以来、20年近く経過している。今回、現行の条例手続き全般にわたって点検したところ、いくつかの課題が把握された。このため、点検結果を踏まえ、改正の必要なのは早急に改正し、住民の皆さまのさらなる安全・安心の向上につなげたい。条例では対応できない課題は、国に廃棄物処理法の改正を要望していきたい。

**吉村議員** ミラノ国際博覧会への参加は、欧州から福岡県への誘客に効果的と考えるが、参加するつもりはないのか。現時点の判断が困難なら、2次募集にも備えるべきではないか。

**A** 今般、国から参加の照会があったが、欧州でも多数の集客を誇るロンドンやパリと異なり、ミラノでの開催であることに加え、日本食と日本食文化をテーマとしたイベントのため、県単独での効果的なPRには限界があるのではないかと考えている。九州各県も、現在のところ応募を見送っている状況だが、しっかりと情報収集に努める。

**津田議員** 「2014・全国餃子祭り」に対する県の支援について。

**A** 県としては、全国餃子サミットに一人でも多くの方がお越し

ただけるよう、東京・大阪などで開催される旅行会社向け説明会、福岡県観光連盟のウェブサイトや県の広報誌、広報番組などを通じて、県内外に積極的にPRしていく。主催者においても、来場者に県内を周遊してもらえりような取り組みをお願いしたい。

**桐明議員** 「しっかりと堤防の補強や嵩上げをやってほしい」という住民の意見を反映して河川の災害復旧工事をしていただけるのか。

**A** 災害復旧にあたっては、施設の原形復旧だけでなく、堤防の補強や嵩上げ、必要に応じて川幅を広くする改良復旧事業も組み合わせながら工事を行っている。事業の実施にあたっては、地元自治体や地域の方々への説明を行いながら、丁寧に進めている。今後も、地元の方々のご意見も取り入れながら、着実に工事を進める。

**松尾議員** 福岡空港の騒音被害が深刻であり、一層の対策に取り組むべきと考える。

**A** 福岡空港の騒音対策については、航空機騒音防止法に基づ

き、国が空港周辺に騒音区域を設定しており、騒音の程度に応じて住宅、教育施設等の防音工事の助成や移転補償などの環境対策事業が、申請に基づき実施されている。県としては、今後とも、国とともに周辺市町村に対して、環境対策事業の内容の周知を図り、同事業が適切に実施されるように努めていく。

**武藤議員** 大濠公園・舞鶴公園を日本一の公園にする決意について、知事の考えを問う。また、業務過重警察署とされる早良警察署を分割すべきと考えるが、警察本部長の考えは。

**A** 両公園については、県民の憩いの場として、また、歴史、芸術文化、観光の拠点として、県と市が密接に連携し、立派な公園にしていきたい。早良警察署については、最終答申で分割対象警察署に列挙した上で、県の厳しい財政事情の中、新たな警察署を建築することは非常に困難を伴うと

しているが、私が着任しました以上、人員配分や候補地等について警察部内で検討していく。

豊築クラブ



西元 健 議員

**西元議員** 東九州自動車道の開通を見据えた地元市町の取り組みに、県はどう連携するのか。

**A** 京築地域の特性と強みを活かして地域振興に取り組む

め、県では平成19年に、市町とともに京築連帯アメニティ都市圏構想を策定。県知事をトップに、京築地域全ての市町の首長および知事部局の全部長等を構成員とする推進会議を組織し、取り組んでいる。今後、高速道路開通の機会をとらえ、これまでに以上に地域の魅力を広く発信し、一体となって取り組む。

一般質問から

※ここに掲げている質問は、一般質問の一部を抜粋したものです。



のうち90施設に設置しており、未設置の5施設も来年早々に設置を完了する。教育委員会所管施設は、駐車場を有する132施設中84施設で設置。全施設への設置を進めていく。警察棟は1区画、警察署や自動車運転免許試験場では、36施設のうち16施設に設置しており、残りの20施設も速やかに設置していく。

いては、県内医療機関のニーズ等を把握し、労働局で実施されてきた事業の課題や成果等を踏まえ、検討していきたい。

いる。これらの安全輸送設備の整備については、県は、民間鉄道に対しては6分の1を補助。第三セクター鉄道は、経営基盤が脆弱であることから、9分の2を補助している。

者85人。「派遣要員が少ない」との声もあり、さらなる育成が必要だ。今年度から、手話通訳者について、県の養成研修の定員を増やすなど、充実を図った。技術力を向上させるためのさまざまな取り組みも行っている。

ることで、社会を生き抜く力として必要な基礎的能力を養える。集団宿泊活動などを通して、道徳性の育成が図られるよう、各学校において教育課程に体験活動を組み込むなど、より一層充実することが必要だ。「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

民主・県政 県議団



仁戸田元氣 議員 原中誠志 議員 佐々木徹 議員 岩元一儀 議員 田辺一城 議員 堤かなめ 議員 畑中茂広 議員

「学びの共同体」の活動は、学習指導要領に示す言語活動にあたり、コミュニケーションの力や考える力、判断する力、表現する力などの素地となる教育活動だと考える。県下の学校では、学習指導の中に「教え合い」「学び合い」の活動を取り入れる学校も増えており、必要に応じて、授業研修会等を通して、実践校の実例等を学校や教員に広く提供していく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「学びの共同体」の活動は、学習指導要領に示す言語活動にあたり、コミュニケーションの力や考える力、判断する力、表現する力などの素地となる教育活動だと考える。県下の学校では、学習指導の中に「教え合い」「学び合い」の活動を取り入れる学校も増えており、必要に応じて、授業研修会等を通して、実践校の実例等を学校や教員に広く提供していく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「学びの共同体」の活動は、学習指導要領に示す言語活動にあたり、コミュニケーションの力や考える力、判断する力、表現する力などの素地となる教育活動だと考える。県下の学校では、学習指導の中に「教え合い」「学び合い」の活動を取り入れる学校も増えており、必要に応じて、授業研修会等を通して、実践校の実例等を学校や教員に広く提供していく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

現在、苅田港の本航路は水深10mで1万2千トン級の貨物船に対応。4万トン級の貨物船の入港が可能となるよう「苅田港港湾計画」に基づき、水深13m、幅350mで国が整備中だ。また、新松山地区では、水深13mに対応した埠頭の整備が進められている。苅田町や立地企業は、早期の水深13m化を求めており、県としては、国に対し、早期に完成するように要請していく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

これまで医療機関の勤務環境改善に向けた研修会や相談事業は、国の地方労働局で実施してきた。厚生労働省は、地域における医師・看護師等確保の観点から、都道府県が主体となってセンターを設置し、事業を実施することが適当としている。このため、センターの設置につ

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

これまで医療機関の勤務環境改善に向けた研修会や相談事業は、国の地方労働局で実施してきた。厚生労働省は、地域における医師・看護師等確保の観点から、都道府県が主体となってセンターを設置し、事業を実施することが適当としている。このため、センターの設置につ

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

これまで医療機関の勤務環境改善に向けた研修会や相談事業は、国の地方労働局で実施してきた。厚生労働省は、地域における医師・看護師等確保の観点から、都道府県が主体となってセンターを設置し、事業を実施することが適当としている。このため、センターの設置につ

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

これまで医療機関の勤務環境改善に向けた研修会や相談事業は、国の地方労働局で実施してきた。厚生労働省は、地域における医師・看護師等確保の観点から、都道府県が主体となってセンターを設置し、事業を実施することが適当としている。このため、センターの設置につ

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。



壹岐和郎 議員 新開昌彦 議員 二宮真盛 議員

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。



出利葉史郎 議員 椋島徳博 議員 吉武邦彦 議員

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「福岡県生活交通確保対策会議」において、デマンド型交通システムの意味や導入事例等を説明していきたい。

結果から、今の子どもたちは、学力向上の基礎となる学習意欲が著しく低下していると思われる。教材や指導方法の工夫が必要では。

「玄海の家」の進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

「玄海の家」への進入道路の問題は、今後とも解決に向けて、関係機関と協議を深めていく。

# 決算特別委員会から

審査日程: 10月3日、10月29日~11月8日

平成25年9月定例会において設置された決算特別委員会では、議会の監視機能を発揮し、審査結果を平成26年度予算に反映させるため、9日間の審査日を設け、付託された平成24年度福岡県一般会計決算など20件の議案について、集中審査方式により慎重に審査を行いました。

【寄附金について】  
平成23年度に設置された県外団体等調査検討会議において、基本財産の返還を求めたにもかかわらず、まだ返還の意思表示がされていない団体があることがただされ、返戻計画書を提出されていない三団体については、提出してもらえないよう引き続き努力してまいりたいとの答弁がありました。

【不祥事再発防止対策について】  
平成25年度に入ってから相次ぐ県職員による不祥事に対する再発防止についてただされ、今回策定した不祥事再発防止対策を確実に効果的に実施していきたいとの答弁がありました。

【空港問題について】  
福岡空港の民間委託に関する地元の見解を取りまとめるにあたって、福岡県と福岡市が共同で設置した「福岡空港運営検討協議会」と、県議会の「空港対策調査特別委員会」との意見が相違した場合

の知事の考えについてただされ、知事から、検討協議会の案も踏まえ、さまざまな意見を伺いながら総合的に判断をしていく、議会の意見はその中でも極めて重要な意見であると認識しており、議会に十分な理解が得られるよう努めていきたいとの答弁がありました。

【飲酒運転撲滅について】  
飲酒運転撲滅条例に規定されているアルコール依存症対策の成果についてただされ、飲酒運転撲滅のために重要なことは、アルコール問題を抱えた者の治療と改善を図ることであり、受診義務者に対して、アルコール依存症に関する受診・治療を受けるよう強く指導してまいりたいとの答弁がありました。

【障害者問題について】  
精神障害者に対する支援についてただされ、知事から、精神障害者の方が住みなれた地域で今までのような生活が続けられるように、医療と、福祉の両面からしっかりと支援を

してきたい。精神障害者に対する理解を深めるため、県民への啓発を進めていきたいとの答弁がありました。

また、「障害者優先調達推進法」の取り組みについてただされ、知事から、全庁、全所属一丸となって、まごころ製品の調達を着実に進めていきたいとの答弁がありました。

【少子化対策について】  
出会い結婚応援事業は、効果の正確な検証が難しく、行政の少子化対策として最適な事業なのかただされ、今後もしろな工夫や取り組みを行いながら、より効果的な少子化対策の実施に向けて一生懸命努力していきたいとの答弁がありました。

【バスポートセンターについて】  
県民サービスの向上を図るため、バスポートの申請交付事業を市町村に権限委譲すべきではないかとただされ、知事から、県民の利便性向上を観点に置いて、他県の実態も参考にしながら、しっかりと市町村の意見を聞いて検討するとの答弁がありました。

【農業問題について】  
国と県が連携し、九州が一体となつての農産物輸出拡大に向けた取り組みと県の主導的な支援についてただされ、知事から、本県が有している「福岡県農産物通商」を各県に活用していただくよう、国や各県、関係団体と連携しながら、九州が一体となって農産物の輸出拡大に努めていきたいとの答弁がありました。

また、果樹の振興対策



【県の産業政策について】  
グリーンアジア国際戦略総合特区と自動車産業については、特区の設備投資に対する支援制度を活用して、さらに県内関係企業の設備投資の拡大を進め、北部九州が、発展するアジアの中でリードできるように自動車の大生産拠点となるよう、しっかりと取り組んでまいりたいとの答弁がありました。

【総合的な空き家対策について】  
老朽空き家対策と空き家活用を両輪とした総合的な空き家対策についてただされ、市町村や関連する事業者と連携して、空き家対策マニュアルを活用した対策の普及を行うとともに、空き家の流通促進に取り組んでいくとの答弁がありました。

【教育問題について】  
地域間学力格差の是正についてただされ、県としては、課題を抱える市町村には、教育事務所を通じて、指導主事を学校、市町村に派遣するなど、学校を含めた市町村教育委員会と一体となって学力向上の取り組みを進めていくとの答弁がありました。

また、福岡県における小中学校の学力向上を図

る対策として、読書活動の推進や「小中学校学力向上推進事業」、「基本的生活習慣習得事業」の取り組みに関する質疑、さらに、商業科高校の充実について質疑がありました。

【交通安全対策について】  
自転車の交通安全教室において、自転車による交通事故をスタントマンが実演し、交通事故の恐ろしさを実感させる方式が効果的であることから、今後、この方式を積極的に取り組んでいただきたいとの要望がありました。

【その他】  
このほか、ふるさと納税、屋外イベント会場の火災予防、「明治日本の産業革命遺産」と「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録、アクロス福岡の敷金問題、有明海の再生、小規模クリニック整備、東九州自動車道開通に伴う県道整備と企業誘致、など多岐にわたって質疑がなされました。

質疑終了後、付託を受けた20件の議案について採決を行い、いずれの議案も起立多数をもって認定すべきものと決しました。

二市と地元経済団体などと連携し、現在実施している経済影響調査の結果も踏まえながら、国に対し必要な調査を行うよう働きかけていきたいとの答弁がありました。

【北九州都市高速道路料金収受業務中の飲酒問題について】  
北九州都市高速道路料金収受業務中の飲酒問題の連の事象説明と今後の再発防止についてただされ、公社が設置する「お客様様の信頼向上に向けた第三者委員会」の最終提言の報告を受け、公社に対する監督命令などの必要な措置を行うとの答弁がありました。

【交通安全対策について】  
自転車の交通安全教室において、自転車による交通事故をスタントマンが実演し、交通事故の恐ろしさを実感させる方式が効果的であることから、今後、この方式を積極的に取り組んでいただきたいとの要望がありました。

## 黒田官兵衛と福岡県 (1面関連記事)

### 《「軍師官兵衛」放映決定に係る県議会での質疑》

県議会では、平成25年2月定例会の一般質問と予算特別委員会において、大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映決定に伴う県の取り組みについて質疑が行われました。  
一般質問では、黒田官兵衛ゆかりの歴史、旧跡について、県の広報活動を積極的に活用して観光誘致に努めるべきではないかと知事にただしたところ、福岡における官兵衛の足跡を紹介するとともに、官兵衛に関する詳細な情報を全国に向けて発信し、一人でも多くの方々に福岡県を訪れていただけるよう取り組んでいきたいとの答弁がありました。  
また、予算特別委員会では、大河ドラマ「軍師官兵衛」について、観光プロモーションの立ち遅れと県民の意識を高める

必要性が指摘され、官兵衛に関わる観光振興の機運を地元から高める取り組みが要望されました。  
2月定例会での質疑も踏まえ、県は、平成25年4月に黒田官兵衛・黒田藩にゆかりのある市町村、団体、企業等と「軍師官兵衛・福岡プロジェクト協議会」を設立し、「黒田官兵衛ゆかりの地・福岡県」としての魅力を全国に広く発信し、観光客誘致や経済活性化に向けたプロモーションを展開しています。  
県議会でも、この県の取り組みを積極的に応援しています。  
福岡県内には、官兵衛ゆかりの地がたくさんあります(1面は、ゆかりの地の一部を掲載)。これを機に、官兵衛ゆかりの地を訪れてみてはいかがでしょうか。



ふくおか官兵衛くん

# トピックス

※トピックス記事の中には、議会のホームページで詳しく掲載しているものもありますので、ぜひ、ご覧ください。

## 第5回広域行政セミナー

12月2日、福岡県議会の全議員をはじめ、九州各県議会の議員、九州経済界の皆さん等を会員とする「九州の自立を考える会」(会長:藏内勇夫自由民主党福岡県議団会長)の第5回広域行政セミナーが福岡市内のホテルで約300人の参加のもと開催されました。

セミナーでは、九州経済産業局の星野雄一国際部長から「九州経済の国際化に向けて～ALL九州による国際化の取組～」と題して、「九州は一割経済といわれるが、IC生産や農業、自動車産業などでは強い面を見せている。九州経済産業局も九州経済国際化推進機構の活動と連携して、九州の企業がもっと海外展開をしていけるよう、経済連携協定や人材教育等さまざまな面から支援していきたい。九州は東アジアに近く、この地の利を活かして九州が一体となって取り組みを進めていけば、九州経済の国際化はもっと活発になる」との話があり、参加者は終始熱心に聞き入っていました。



## 13都道府県議会議長会議

11月18日、神戸市において「13都道府県議会議長会議」が開催され、松尾統章議長、長裕海副議長が出席しました。

同会議は、大都市を有する都道府県(北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県)に共通する問題を解決すること等を目的としており、今回は、本県が提案した「燃油高騰対策について」ほか10項目について、国などの関係機関に要望することを決定しました。

なお、今回の会議から、宮城県が新たに加入することとなりました。



## 全国都道府県議会議長会 社会文教委員会要請活動

11月7日、松尾統章議長は、全国都道府県議会議長会の社会文教委員会委員長として久保田順一郎副委員長(群馬県議会議長)、日高滋委員代理(鹿児島県議会副議長)と共に、自由民主党、厚生労働省、文部科学省に対し、要請活動を行いました。

自由民主党においては丸川珠代厚生労働部会長と、厚生労働省においては土屋品子厚生労働副大臣と、さらに文部科学省においては山中伸一文部科学事務次官と直接面会し、10月22日の全国都道府県議会議長会定例総会で決定された平成26年度政府予算編成に関する提言書をお渡ししました。

丸川珠代厚生労働部会長からは、特に「安心子ども基金」の事業期間を延長する方向で頑張っていきたいという言葉いただきました。



土屋品子厚生労働副大臣(写真左)からは、各提言事項に対する現在の政府の取組状況について丁寧に説明していただき、今後も前向きに取り組んでいく旨の発言がありました。

山中伸一文部科学事務次官とは主に教育委員会制度改革について活発な意見交換が行われました。

## 駐日ベラルーシ共和国特命全権大使表敬訪問

11月25日、セルゲイ・ラフマノフ駐日ベラルーシ共和国特命全権大使が、議長室を訪問されました。

松尾統章議長や長裕海副議長をはじめ、福岡県国際交流推進議員連盟から原口剣生顧問代理、吉原太郎顧問、中尾正幸副会長、宮浦寛副会長、高橋雅成副会長、重野正敏副会長、秋田章二事務局長がお迎えし、訪問を歓迎しました。



松尾議長は、「一般社団法人日本ベラルーシ商工振興会(飯塚市)が設立されたことをお喜び申し上げます。今後は、ベラルーシと日本の架け橋としての役割を担っていかれますことをご期待申し上げます」と挨拶しました。

ラフマノフ特命全権大使は、「西日本を代表する経済都市である福岡県で、一般社団法人日本ベラルーシ商工振興会が発足しました。今後、福岡県の企業がベラルーシに進出してくださることを期待しています」と挨拶されました。

懇談では、ベラルーシの特産物や、日本とベラルーシの交流などが話題となりました。

## ハワイ州立ルーズベルト高等学校表敬訪問

11月7日、福岡県立水産高校の実習船「海友丸」に乗船し、航海実習体験をしながら来福されたハワイ州立ルーズベルト高校の生徒2名と引率のモーリス・ウメノ先生が、県議会を訪問されました。県議会では、長裕海副議長および福岡県日米友好議員連盟の武藤英治会長、板橋聡事務局長がお迎えし、訪問を歓迎しました。

長副議長は、「福岡県議会は1982年にハワイ州議会と友好親善促進の盟約を締結し、以来、文化、経済、教育等の分野で交流を続けています。実習船での体験や、水産高校の皆さんとの交流を将来の日米交流の発展につなげていただきたいと思います」と挨拶しました。

ウメノ先生は「実習船での経験はたいへん素晴らしいものでした。今後も両校間の交流を通して、生徒たちの国際的視野を広げていきたい」と挨拶されました。

一行は、11月4日に博多港に入港後、水産高校での交流活動や体験学習、宮地嶽神社の見学などを行い、帰国されました。



## 福岡県商工会議所連合会による要望

11月5日、福岡県商工会議所連合会の末吉紀雄会長(福岡商工会議所会頭)と役員の方々が、福岡県の中小企業対策に関する要望のため、松尾統章議長と長裕海副議長を訪問されました。

末吉会長は、第121回福岡県商工会議所連合会通常会員総会で決議された「福岡県の中小企業対策に関する要望書」を松尾議長に提出され、「福岡県には厳しい財政状況にもかかわらず、中小企業施策の予算措置を講じていただき感謝している。今後も引き続きよろしくお願ひしたい」と話されました。

松尾議長は、「商工会議所の皆さんには、日ごろから中小企業振興にご尽力いただき感謝している。今後も九州の牽引役として、中小企業の皆さんが元気になるよう努めていきたい」と述べました。



# トピックス

※トピックス記事の中には、議会のホームページで詳しく掲載しているものもありますので、ぜひ、ご覧ください。

## クールジャパン・フクオカ in ハノイへの参加

1月16日から19日までの日程で、貞末利光議長代理(ベトナム友好議員連盟会長)、松本國寛議員(同会長代理)、野村陽一議員(同副会長)、香原勝司議員(同事務局次長)が、小川洋知事とともにベトナム・ハノイ市を訪問しました。

今回の訪問は、ベトナム国立歴史博物館で開催される「日本文化展」の関連イベントである「クールジャパン・フクオカ in ハノイ」に参加し、本県の多彩な若者文化を通じて、福岡の魅力を広くベトナムの皆さんに紹介しました。

さらに、今回の訪問では、ハノイ市人民評議会、ハノイ市人民委員会、ホーチミン市なども訪問しました。

特に、ハノイ市人民評議会では(写真下)、レー・バン・ホワット副議長をはじめとする評議会の方々との会談を行い、県議会と人民評議会の友好提携や福岡訪問について具体的な提案が示されました。また、ホーチミン市では、県内高校の修学旅行について、現地の高校関係者や関係団体と意見交換を行い、高校生の交流がお互いに時を得た極めて有意義なものとして認識されており、入国審査の円滑化や修学旅行以外の相互短期留学についても提案されるなど、大変充実した訪問となりました。



## 米国ハワイ州議会友好訪問

1月14日から18日までの日程で、松尾統章議長を団長とする友好訪問団8人が米国ハワイ州を訪問しました。本県議会とハワイ州議会は、昭和57年に国際友好親善促進の盟約を締結して以来、友好交流を続けており、今回、ハワイ州議会からの開会式招聘に答えて訪問したものです。



1月15日に開催された州議会上院および下院の開会式では、松尾議長をはじめ友好訪問団のメンバーが紹介され、長年にわたる友好交流に対し議場から温かい拍手が送られました。

また、キム・ダナ上院議長およびスキ・ジョセフ下院議長表敬では、福岡県が進めている先端成長産業などを紹介すると、水素エネルギー、環境技術、高齢者問題について高い関心が示されました。

他にも、州政府のツツイ・シャン副知事表敬、県立水産高校と交流を続けている州立ルーズベルト高校訪問、ハワイ州福岡県人会の皆さんとの交流、ハワイ日本文化センター視察など、ハワイ州との友好交流の促進に向けた有意義な訪問となりました。

## 大韓民国慶尚南道議会友好訪問

11月26日から28日にかけて、松尾統章議長、各会派代表者(自民党県議団:松本國寛幹事長、民主・県政県議団:吉村敏男会長、公明党:上岡孝生副団長、緑友会:林裕二会長)および原口剣生福岡県日韓友好議員連盟会長ら12人の公式訪問団が、韓国を訪問しました。



11月26日、一行は慶尚南道議会を表敬し(写真上)、黄 太守(ファン テス)韓日親善議員連盟会長ら7人の議員と意見交換を行いました。

黄会長は、「韓国には、人と人との関係は3回、6回、9回と出会うの回数を重ねることにより親密になっていくという法則がある。両議会の交流もこの法則に従って定例化されることを望みたい」と述べられました。

松尾議長は、「わたしたちの交流を地域レベルの交流に発展させるべく、慶尚南道議会の皆さんとは、相互尊重と相互信頼に基づく緊密な友好関係を築いていきたい」と述べました。

翌27日は、韓日親善協会中央会を訪問し、金 守漢(キム スハン)会長らと意見交換を行いました。金会長は、「現在、日韓両国の関係が非常に難しいものになっている。国と国との関係は、国民同士の友好交流がしっかりしたものとなっていれば、問題はない。福岡県議会の皆さんには肉親のような親近感を感じており、これからも共に両国のために頑張っていきたい」と述べられました。

## 第25回「星空の街・あおぞらの街」全国大会

11月16日、高円宮妃殿下をお迎えして、第25回「星空の街・あおぞらの街」全国大会が北九州市の北九州国際会議場で開催され、松尾統章議長が出席しました。

この全国大会は、大気環境の保全に対する意識を高めること、郷土の環境を活かした地域おこしの推進に役立てることを目的として、平成元年度から毎年各地で開催されており、今回で25回目となります。

北九州空港にご到着された高円宮妃殿下は、「星空の街・あおぞらの街」全国大会にご臨席になり、「本大会は、昭和63年に北九州市で行われた『星空の街・あおぞらの街サミット』に端を発しており、今回、25年の時を経て、北九州市で開かれることは意義深いことです」とお言葉を述べられました。

松尾統章議長は、「本大会を契機として、『青空を願う』心を共有し、かけがえない『星空の街・あおぞらの街』が未来永劫まで引き継がれますよう、また、環境保全活動の輪が日本国内のみならず世界各地へ広がりますことを心から期待します」と歓迎の言葉を述べました。



式典後、高円宮妃殿下は、北九州市立児童文化科学館で行われた星空観望会をご覧になり、17日、北九州空港から福岡を後にされました。

## 県議会棟で「まごころ製品販売会」を開催

12月定例会の開会日である12月2日、障害者週間(12月3日～9日)を迎えるにあたり、議会棟1階の玄関ホールで、障害者の皆さん手作りによる「まごころ製品」の販売会が開催されました。

当日は、県内各地域から5施設が出店し、焼き菓子やドーナツ、パン、縫製品、ゆずごしょう、いも焼酎「自立」などが販売されました。

公務の合間を縫って、松尾統章議長や長裕海副議長をはじめ、多くの議員が販売ブースを訪れ、施設の皆さんを激励するとともに、障害者の皆さんが心を込めて作った「まごころ製品」を購入しました。



## 「ふくおか県議会だより」点字版およびデジター版CDをご利用ください。

目の不自由な方に、県議会の活動をよりよく知っていただくため、この広報紙の点字版およびデジター版CDを発行しています。ご家族やお知り合いの方で、ご希望の方がいらっしゃいましたら、議会事務局調査課までご連絡ください。



TEL 092-643-3832 FAX 092-643-3825



編集・発行 福岡県議会

〒812-8574 福岡市博多区東公園7-7 電話 092-6433832(調査課)

2/26(水)から2月定例会が始まります!

日程は右のとおりです。傍聴・視聴の際の参考にしてください。

### 2月定例会のスケジュール(予定)

- 2月26日(水) 開 会
- 3月 5日(水) 代 表 質 問
- 3月 6日(木) 代 表 質 問
- 3月 7日(金) 一 般 質 問
- 3月10日(月) 一 般 質 問
- 3月11日(火) 一 般 質 問
- 3月12日(水) 一 般 質 問
- 3月13日(木) 常 任 委 員 会
- 3月14日(金) 常 任 委・本 議 会
- 3月17日(月) 予 算 特 別 委 員 会
- 3月18日(火) 予 算 特 別 委 員 会
- 3月19日(水) 予 算 特 別 委 員 会
- 3月20日(木) 予 算 特 別 委 員 会
- 3月24日(月) 予 算 特 別 委 員 会
- 3月25日(火) 常 任 委 員 会
- 3月26日(水) 常 任 委・予 特 委
- 3月28日(金) 閉 会

### 議会事務局の組織と問い合わせ先

※福岡県議会についてのお問い合わせは、県議会事務局の各課・室までお寄せください。

<b>総務課</b> ■ 議会の庶務、経理 ■ 本会議傍聴 ■ 議会棟見学 など TEL 092-643-3823/FAX 092-643-3825 E-mail gsomu@pref.fukuoka.lg.jp	<b>議事課</b> ■ 本会議、委員会などの運営 ■ 請願、陳情 ■ 会議録作成 など TEL 092-643-3827/FAX 092-643-3825 E-mail ggiji@pref.fukuoka.lg.jp
<b>調査課</b> ■ 情報公開 ■ ホームページ ■ 本紙へのご意見、ご要望 など TEL 092-643-3832/FAX 092-643-3825 E-mail gchosa2@pref.fukuoka.lg.jp	<b>政策企画支援室</b> ■ 議員提出条例の制定・改廃 ■ 政策提言に係る企画支援 など TEL 092-643-3806/FAX 092-643-3825 E-mail gchosa2@pref.fukuoka.lg.jp

※「ふくおか県議会だより」は新聞折り込みでお届けするほか、県の総合庁舎や各地区の県民情報コーナー、県立美術館、県立図書館、クローバープラザ、市町村の窓口、県内ローソン各店舗などにも置いてあります。 ※「ふくおか県議会だより」は点字版およびデジター版(音声版)CDも発行しています。ご希望の方は、県議会事務局調査課へご連絡ください。

※次号(第9号)の発行は、平成26年5月中旬を予定しています。